

solution

光和コンピューター

書店向け小型マルチ決済端末発売

光和コンピューターはこのほど、書店向けにオールインワン決済端末「PAYGEATE Station」の提供を開始した。

持ち運びできる端末で、クレジットカードやQR決済、交通カードなど複数の決済に対応できる。

小売現場で進むキャッシュレス化の流れに対応する。

端末は420㍉で、マイクロUSB端子による充電式。操作はタッチスクリーンモニターで行う。クレジットカードをスキャンするリーダー(スワイプ型)と差し込むリーダー(ICカード型)、QRコードなどを読み込むカメラを搭載し、控えを出力するプリンターも付いている。また、レジで入力した金額を転送して決済処理するように、POSレジとBluetoothで接続することもできるなど、開発による拡張性も高い。

■クレカやQR決済など利用可能に

リリース時はスワイプ型とICカード型のクレジットカード、銀聯カード、QRコード(楽天ペイ、LINE Pay=ラインペイ、d払い、PayPay=ペイペイ、Alipay=アリペイ、WeChatPay=ウィーチャットペ



片手で持てる小型な筐体で多くの電子決済に対応

内蔵プリンターで控えを出力できる

イ)、共通ポイント(ポンタポイント、dポイント、楽天ポイント)に対応。

さらに、6月からはSuica、PASMOなど交通系やnanacoといった非接触型ICカード電子マネーにも対応するなど、新たなサービスにも順次対応する。

端末はダイワハウスグループの(株)ロイヤルゲートが開発し、昨年12月にリリースした。光和コンピューターが書店向けに販売する。

費用の目安は、端末の導入費用が7万円程度、月額利用料金は現在対応する決済手段を搭載して2500円程度、クレジット決済手数料は3%未満を予定しているが、既存の決済代行事業者との接続も可能。

■キャッシュレス対応は必須に

キャッシュレス化は今秋に予定される消費税率アップや、来年の東京オリンピックで想定される海外からの訪問者増加などに伴って進むとみられており、政府も補助金などで導入を促進している。

新たな決済手段への対応の有無が、顧客の店舗選択に影響することも想定される一方で、多様な決済手段に対応するためのコストや、複数の端末を設置することなどが課題になっている。

「PAYGEATE Station」の主な仕様は、端末サイズが長さ184㍉×幅84㍉×高さ58㍉、420㍉。OSはアンドロイド5.X

お問い合わせ:

電話:03-3865-1982(島村、多田)

e-mail:kowa@kowa-com.co.jp



現時点で対応する決済手段